

BIM施工における標準活用事例 第15回

BIM施工標準活用事例シート

No. 28

01 施工

02 施工

03 発注

04 工程

05 現場

06 安全

07 品質

08 検査

09 その他

BIMデータ活用による風量測定用資料の自動作成

- ・BIM情報から風量測定用のリストとプロット図を自動作成が可能
- ・測定した結果がスパイダープラス(S+)にデータ保存

【対応ソフト】●主利用 ○対応可能

対応ソフト	Revit	Rebro	●	T-fas	○
目的	風量測定検査のための書類作成の省力化				
メリット	・部屋名、制気口サイズ、風量といったBIMに入力されたデータを2次利用できる ・ナンバリングは自動なので、修正があっても手間要らず ・計測データをRebroに取り込むことも可能なので、S+の標準フォーマット以外のフォーマットにする場合にも対応が容易				
建築用途・規模	制限なし				
前工程への課題・要望	・メリットの3項目にある通り、フォーマットが指定されてしまう場合には手間が増える ・リストの形式はいくつかあるが、属性情報を任意で選択できるとより省力化が可能（現状の仕様では、修正がある場合にエクセルに出力した後行うことになる）				
施工側の課題	・BIM情報で検査票を作成するため、風量や制気口サイズに誤りがあるてはならない ・計測器が限定されるため、対応機種を用意する必要がある ・計測後データのBIMデータ側へのフィードバックは可能か？（アプリ自体の課題として）				
工夫点・活用ツール	活用ツール：スパイダープラス(S+)、testo(計測器) 系統分けの機能がS+側にないため、出力の際に系統を分ける形で分割出力すると系統単位の結果の集計が容易				
備考	参考URL https://spider-plus.com/				

日空衛 BIM推進委員会